

2020年2月23, 24日(日, 月)の2日間、静岡県磐田市の竜洋B&G海洋センター しおさい湖の水面で、IOM NCA JPN 第5回競技会が開催された。2020年としては初の競技会であるが、IOM NCA JPN の競技会としては通算5回目となるので、公称では第5回競技会である。

ここ「しおさい湖」は天竜川が太平洋にそそぐ河口の左岸側にあり、上流は天竜川に、下流は太平洋につながる水路につながっており、潮の満ち干により水位が大きく変化する汽水湖である。天竜川の水を引き込んでいるので、塩分濃度は低い。

竜洋B&Gセンターさんのご協力をいただき、地元静岡県菊川市の丹野池RCヨット協会の救助艇と、マーク等の備品を艇庫に保管させていただいている。その救助艇をIOM NCA JPN の競技会のマーク打ちおよびレース中の救助に借用する。救助艇の船外機は、白鳥NCA書記官が貸与してくれる2馬力船外機を使用する。2馬力船外機使用艇の運転には、船舶免許が不要だ。

水面の利用から救助艇および、備品の艇庫への保管に加え、今回のような2日間にわたる競技会では、参加者の艇を艇庫で保管することを許可して下さるので、1日目の終了時に参加者が艇の艀装をばらさずに保管でき、レース艇準備に要する手間が大幅に省けるという環境を提供していただいている。参加者の自動車も、レース水面に近い、竜洋B&Gセンターの建物の水面側を使用させてもらえる。艇を水面に下すのも目の前の岸のどこからでも可能であり、水面との間には艇を横たえることができる芝生面もあり、競技会場としては理想的な環境を提供していただいている。

このようなご支援をいただいている竜洋B&Gセンターの運営会社である、遠鉄アシスト株式会社様から、レース開催のこれらのバックアップに加え、入賞者の賞品と飲み物の提供をいただき、1日目のレースは「遠鉄アシスト杯」という冠を付けてのレースとし、2日間通しての成績をIOMNCA JPN の第5回競技会として成績集計する。

今回も実艇の日本セーリング連盟 JSAF の資格所有者である中島氏、落合氏の協力を得て、中島氏にレース委員長、落合氏に審判委員長を務めていただいていたの競技会である。また、中部の杉浦夫妻が今回もレース運営に関わる受付から成績集計までの運営業務を担っていただいた。

23日は、遠鉄アシスト杯ということで、NCA会員ではなくとも参加できる。このことでNCAのレース参加者と遠鉄杯のみの参加者を合わせて、19名の参加者数となりNCAレース開始以来最大参加者数の大会となるが、今回は HMS システムをとらず、19艇の一斉スタートである。

救助艇の準備、マーク設定後、今年選出された室川新 NCA 会長の挨拶、竜洋B&Gセンターの 服部所長にご挨拶いただき、中島レース委員長の開会の挨拶、落合審判委員長の帆走指示書ベースの注意事項説明のあと、集合写真撮影し、レース開始となった。

天気予報では7m/s の強風予報通りの強風コンディションであるが、選手によっては、操船エリアで感じる風はCリグコンディションだが、走らせるとレース水面では力がない感じを受ける、とのことで、Bリグを選択する選手もいる。風は安定して同じ風速で吹くものではないし、強弱変化し、割合頻繁にブローがある。Bリグでは、特に風下に向かう下りレグでブローが入るとバウ沈したりブローチングする。風向はやや北に寄っており東西に長い水面であるので、上りレグがやや片上り気味のコースとなる。

この強い風のコンディションでは、下マークへ向かう下りレグでプレーニングして飛ぶように走るときは、気持ちよく走る。しかし、開いているブーム側に艇が傾きブーム先端が水に突っ込むと、水の抵抗でブームが閉じて急激に艇が風上に切りあがりコントロールを失う。強風のブローの中、選手達は風下側に艇が傾かないように、ラダーを細かく動かして、艇の傾きをコントロールし、走らせていく。

全19艇の一斉スタートで艇数が多いことで、まずスタート時に混乱が起きる可能性が高く、風向の関係で、上マークへのアプローチが、航路権のないポートタックでのアプローチ艇が少なからず生じるコース設定となったため、上マーク回航

でも混乱が生じやすい。

第1レースは、ほとんどの艇がCリグを選択してのレース開始となった。参加艇が密集する中で、各所で「スタボー」と航路権を主張する声が響く。そんな中第1レースで、早くも優勝候補のセール No.59平尾選手(Britpop)は、非権利艇との接触で被害を受け、救済システムのお世話になることになる。

(救済システムは、非権利艇とのトラブルにより、多大な不利益を被った場合に、前2レースの平均点を当レースの得点とするシステムであるが、この第1レースで救済が生じた場合には続く2レースの平均点となる)

第1レースを制したのは、伏兵セール No. 34橋本伸夫選手(PULSER 梅林選手的设计製造艇だ)。それに続くのが第3回競技会で2位の好成績を残しているセール No. 64池松選手(Kantun 2)、3位は伏兵セール No.12藤井選手(Shuttle 岡田選手的设计製造艇だ)、それにセール No. 01川本選手(HK10 川本選手自作艇))が続く。いつも安定して上位に入ってくるセール No. 45地濱選手(Kantun 2)は11位と出遅れる。他にリタイアする艇もあり、国内では早い時期に Britpop を愛艇として入手し、好成績を残しているセール No.19竹本選手(Britpop)もリタイアとなる。

セール No.59平尾選手は第2レースも15位と思い通りのレースができず、救済システムによる救済を十分に活用できない。

第2レースは、世界選手権にも参加したことがある、セール No. 43梅林選手(Alternative 英国 BG 设计図、自作。今回船尾部を改造)がトップフィニッシュ。2位には、第1レースリタイアとなったセール No. 19竹本選手が入る。セール No. 12藤井選手が3位と好結果を続ける。セール No. 12藤井選手は第3レースは非権利艇との接触で救済システムのお世話になるが、第1, 2レースが3位と好成績であったことから、第3レースの得点も3点となり、合計点でトップに立つ。セール No. 12藤井選手は第4レースは7位で大崩れせずに合計点でトップをキープするも、第5レースでリタイアとなり20点を加算し順位を落としてしまう。これを合計点で追っていたセール No.43梅林選手は第3レースで11位と順位をやや落とすも、続くレースでは5位, 8位, 4位と大崩れしない結果を刻む。しかし、セール No.45地濱選手に抜かれ、合計点で2位に付ける。

セール No.45地濱選手は、他艇がCリグを選択する中、競技開始からBリグで走っている。実際の水面の風は、BリグとCリグの間くらいとのことだったが、やや弱まりBリグ寄りに変化してくる。上位の選手達がBリグに交換し始め、操船のうまさもあり、Bリグ艇が上位を占めるようになってくる。安全策をとる選手はCリグで安定した走りの方を取る。風速も弱くなったり強くなったり変化し、CリグからBリグに交換したと思ったら、またCリグに戻したりとセールチェンジの申告が頻発し忙しい。

セール No.45地濱選手が第1レースこそ出遅れたものの第3, 第4レースとトップフィニッシュを続け、第5レースで3位を取ったところで合計点ではトップに躍り出る。4レースを過ぎるとカットレースがあるので、実順位は分かり難くなる。

序盤出遅れたセール No. 59平尾選手は、Bリグ有利になってから調子を取り戻し、何と第5レースから第8レースまで連続4レースストップフィニッシュを続け、第7レース終了時点で合計点では2位まで追い上げてくる。

Kantun2 にしてから上位にくる争いをするセール No. 64池松選手は、第1レースこそ2位フィニッシュしたが、その後調子が上がらず、第2, 4, 5, 6レースと2桁得点を積み重ねてしまい、中位に付けている。

セール No.45地濱選手はその後も3, 4, 3, 2位と好成績を続け合計点トップをキープするが、4レースで1レースカット、8レースで2レースカットとなるので、セール No. 45地濱選手、セール No. 59平尾選手、2人の争いは微妙なところに入ってくる。

セール No. 64池松選手は、後半第7レースから2位, 2位, 4位, 2位と上位フィニッシュを連続し、第10レース終了時点で合計点ではセール No.43梅林選手を抜いて3位まで追い上げた。

第9レースではセール No. 59平尾選手の3位に対し セール No. 45地濱選手が2位と上回る。しかし、1日目遠鉄アシスト杯の最終レースとなった第10レースで、セール No. 59平尾選手がトップフィニッシュしたのに対し、セール No. 45地濱選手が痛恨のリタイアとなり20点の加算となった。当然このレースはカットレースとなったが、セール No. 59平尾選手は、序盤の調子が上がらなかったときのレースがカットレースとなり、カット計算後では3点差でトップを逆転し、見事遠鉄アシ

スト杯を制した。

セール No. 32岡田選手は、得意なはずの強風のコンディションにもかかわらず、1日目は調子が上がらず、第5レースで2位、第9レースでトップフィニッシュと実力の片鱗を見せるも、総合では10位で1日目を終えた。

いつもレースに手伝いに来てくださる、杉浦夫妻のレース結果集計のお陰で順位集計ができ、服部所長からの賞品授与で遠鉄アシスト杯の表彰式が行われた。

1位:セール No.59 平尾選手 (Britpop)

2位:セール No.45 地濱選手 (Kantun 2)

3位:セール No.64 池松選手 (Kantun 2)

4位:セール No.43 梅林選手 (Alternative 改)

5位:セール No.12 藤井選手 (Shuttle)

総合順位上位に入ったセール No. 12藤井選手だが、セールサーボのトラブルを起こしており、修理に追われていた。川本選手の協力を得て、何とか2日目を走る目途が立つ状況となった。

1日目の夜は懇親会

人生のベテランの多い参加者の間では、自分達が少年だった頃の模型の話で盛り上がった。

室内で模型エンジンを回したこと(昔のマフラーのない時代の模型エンジンを室内で運転すると、サイズが09クラスの小規模エンジンでも音の大きさがどの程度のものかおわかりだろうか)。

Uコンを飛ばした話。ラジコンは高嶺の花で、大人しか楽しめなかったこと。シングルボタンのトントー操作 等の話で盛り上がった。当時は、モーターで飛行機が自在に空を飛ぶなど考えられなかったこと、ましてやドローンなど考えられなかった。

泊りは、西日本では人気ナンバー1の竜洋海洋公園キャンプ場のコテージに宿泊をとった。こここのところのキャンプ人気で、キャンプサイトが埋まるほどではないが、この真冬でも多くの方がキャンプを楽しまれている。

コテージで、2次会が催されたが22時までで、お開きとした。翌日は8時に朝食で、9時には競技開始だ。

1日目の遠鉄アシスト杯だけに参加の選手、および、2日目は都合が悪くて不参加となる選手もいるので2日目は15艇で競技開始となる。

2日目も風は強くブリグの上限に近い風で、上りでは風で立つ波を切ってスピードに乗って走っていく。下りレグでは、ブローに乗ってプレーニングすると快走だ。

スタートは上側から出る方が有利な風であるため、岸川マーク付近に艇が集中する。

2日目第1レースは、1日目調子が上がらなかったセール No.32岡田選手 が制して始まった。2位は1日目8位だったセール No. 10松村選手 (V10)。3位はセール No. 64池松選手。1日目首位のセール No. 59平尾選手は、何とトラブルでリタイヤとなり最大点の加点となる。1日目3点差で2位だったセール No. 45地濱選手は、4位でフィニッシュし、合計点で再びトップに立つ。

第2レースはセール No. 10松村選手がトップフィニッシュ。第2レース2位に入ったセール No. 45地濱選手は第4レースこそ8位とやや順位を落としたものの、その他は3位、2位、2位と堅調な走りで合計点トップをキープしていく。

セール No. 32岡田選手が1日目とは打って変わって快走を見せる。1レース目トップフィニッシュ、第2レースこそ5位とやや順位を落としたものの、続く第3、第4レースを連続トップフィニッシュし、追い上げ著しい。

一方セール No. 59平尾選手は、第2レースも12位と2桁順位で、1日目と同様序盤に調子が上がらない。第4レースは2位に入ったものの、第5レースは他艇との接触で、1日目に引き続き救済システムのお世話になることになる。何とその接触の相手はセール No. 32岡田選手。セール No.32岡田選手が非権利艇で航路権のあるセール No. 59平尾選手と接触、この接触でセール No. 59はレース続行不能となってしまう。通常のペナルティーは、1回のタックと1回のジャイブで、相

手艇より不利なポジションになればレース続行可能であるが、「相手がレース続行不能となるダメージを与えた場合のペナルティーは、リタイアでなければならない」というヨットならではの規則によりセール No. 32岡田選手はリタイアした。

サイドマーク付近の水面にブローが吹き込み、マークを回ったところのジャイブでコントロールを失う場面も見られる。風が強く、上マーク～サイドマークで混乱が生じると、第1上マーク～サイドマーク付近の他艇の混乱を尻目に、うまく回った艇が、下りレグに入って大きく他を引き離して独走するようなレースが多くみられる。

セール No. 59平尾選手とセール No. 32岡田選手の接触があった第5レースでは、セール No.63福家選手(V10)が第1上マークを回って下りレグに入るところから他艇に大差をつけて独走し、トップフィニッシュを決める。

第6レースではセール No. 32が独走を見せる。岡田選手は第5レースこそ非権利艇で起こしたケースでリタイアしたものの、この日は好調で、第6レースからトップ、2位、トップ、2位と総合成績で追い上げていく。

セール No. 45地濱選手は第8レースで12位と少し大きな加点をするが、それ以外は2～4位のフィニッシュで合計点ではトップ。

徐々に風が強めになり昼食前からちらほらCリグに変更する選手がみられる
昼食時間中にも少しづつ風速が上がり、多くの選手が昼食休憩時間にCリグに変更して午後のレースに臨んでいく。

佳境に入り、各選手の意気込みが上がってきたのかスタートで3回連続してゼネラルリコール(スタート号砲前にフライングした艇が複数いて特定できない)を起こすというめずらしい場面も見られた。

セール No. 45地濱選手は、他選手よりも大きいリグで臨む場面が多く見られるが、その地濱選手をもってしてもBリグでは艇のコントロールが思うようにできなくなり、たまたまCリグに交換する。

Britpop を駆りながらこれまで上位争いに加わってこなかったセール No. 13室川選手が、第9レース、第11レースで前に出ると、コース取りで追い上げをかわし、トップフィニッシュ。

第10レースではセール No. 10松村選手がサイドマークを回って下りレグに入ったところで独走態勢に入り、そのまま逃げ切りかと思われた。しかし、セール No. 64池松選手があきらめずに追走、第2上マークへのアプローチをうまく走ったセール No. 64が、上マークへのアプローチで上り切れずにタックを繰り返したセール No.10を逆転しリードを広げてトップフィニッシュ。セール No. 45地濱選手もセール No. 10松村選手を抜いて2位フィニッシュ。セール No. 10松村選手は無念の3位となった。セール No. 64池松選手のあきらめない走りとうまさどが見られた。

風が強くなったことで、トラブルを起こす艇も見られる。1日目4位と総合成績好位置につけたセール No. 43梅林選手だが 第7～10レースでトラブルのため連続リタイアとなり大きく後退してしまった。

セール No. 01川本選手は第1レースから、第7レースまでリタイアとなり、完走もままならない状況に追い込まれている。
いよいよ終盤の第11レース、トップ艇に僅差で下マークを回ったのはセール No. 45地濱選手。下マーク後ポートタックで少し長めに走ったら、スターボードタックへタックを返すと見ていたが、今回はやけにポートタックで引っ張る。いつタックするのかと思っていたら、タックしないまま止まってしまっている。何とメインシート切れのトラブルだった。リタイアとなったセール No. 45地濱選手もここにきて大量加点してしまう。

第12レース、開始前に最終レースとなるとのアナウンスがあった。

上に書いたように、上マークを上手く抜けた艇が他を引き離して独走する場面が多くみられたが、このレースは見ごたえのある接戦だった。

第1上マークへの上りレグで、セール No.45地濱選手はセール No.32岡田選手にタックするスペースを押さえられ、「タックしませんか」との声かけにも応じてもらえず、自身が考えていたコースよりかなり岸寄りまで連れていかれる。ようやくタックして、航路権のあるスターボードタックで上り始めたセール No. 45地濱選手だが、先行したセールNo. 32との間に割り込んできた非権利艇にマスト先端で一瞬絡まれてコントロールを失い、遅れを取ってしまう。

セール No. 01川本選手が、トップでの上マークへのアプローチで、マーク手前で失速してしまう。これで生じた混乱の

間にサイドマークを回ってトップで下りレグに入ったのは、先ほど遅れをとったはずのセール No.45地濱選手がトップ。実艇470級のトップクルーとして修羅場をくぐってきた地濱選手は、初期に遅れをとってもいつのまにか挽回して上位に入ってくる強さが、たびたび見られる。2艇身程の差でセール No.59平尾選手が続き、5艇身ほど離れてセール No.64池松選手の順で下りレグに入り 下マークに向かっていく。下マークも順位は変わらず、差もあまり変化しないまま下マークを回航し第2上マークへの上りレグへ。小差の2番手で下マークを回ったセール No. 59平尾選手がトップのセール No. 45地濱選手を追っていく。この2艇と少し差があったセール No. 64はこの2艇とは異なるコースを取る。第2上マークへの上りレグの中間あたりから、セール No. 45地濱選手がセール No. 59平尾選手を牽制してタックを繰り返す。この間にこの2艇と異なる岸寄りのコースを引いたセール No. 64池松選手がタック回数を少なくして先行する2艇との差を詰めてくる。セール No. 45地濱選手とセール No. 59平尾選手がポートタックで上ってくるころにセール No. 64池松選手が追いつき、スターボードタックで迫る。セール No. 64池松選手の前を何とか通れると読んだセール No. 59平尾選手はそのまま進むが、抜けきれず、セール No. 64池松選手がセール No. 59平尾選手の後尾に軽く接触し、非権利艇のセール No. 59平尾選手がペナルティー履行で、遅れを取る。上マークへのアプローチで権利艇、非権利艇の関係を活かして、ついにセール No. 64池松選手がセール No.45地濱選手をかわしてトップに出る。しかし、差はほとんどない。第2上マークからサイドマークを回って下りレグに入るとセール No. 45地濱選手の艇速が少し早く、下マーク直前では僅差ながら首位を取り返す。セール No. 45地濱選手は第2下マークを回って早めにタックしスターボードで沖に寄っていくコースに入る。小差で下マークを回ったセール No.64池松選手はセール No.45地濱選手の少し上のコースに入るようにタックし、追いかける。少し差の開いていたセール No.59平尾選手が今度は前2艇とは異なるコースを取り、ポートでの走りを伸ばして岸寄りにコースをとる。沖寄りで競り合うセール No. 45と64の2艇だが、セール No. 64池松選手の方が上りのスピードがわずかに早い。セール No. 45地濱選手は先行して走っているながら、タックするスペースがなくなり、機会を逸してしまう。それはセール No. 45地濱選手はタックしてポートタックになったとたん非権利艇となり、強風でスピードのある今の展開ではスターボードタックの権利艇で風上のコースを走ってくるセール No. 64池松選手が到達する前に、前を抜けるタイミングでなくなってしまったからだ。セール No. 45地濱選手は、スピードで優れたセール No.64池松の後ろを通るようにタックすることとなった。セール No. 64池松選手はさらにスターボードタックでの走りを伸ばしたあと、沖マーク近くにフィニッシュするようにタック。セール No.59平尾選手は岸よりのフィニッシュマークに入るようにコースを取り、かなり追い上げている。セール No.45地濱選手は沖から岸マーク近くへフィニッシュするコースを取る。3艇がフィニッシュラインへのコースを決めた時点では、どの艇がトップで入るか分からない位置関係となった。手に汗握る攻防を制したのはセール No.64池松選手で、沖マーク近くにトップで飛び込む。続いて僅差でフィニッシュラインを切ったのは岸マーク近くでセール No.59平尾選手、セール No. 45地濱選手は遅れをとって3位でフィニッシュラインを切る結果となった。

最終レースに相応しい、上位艇3艇による見ごたえある接戦で、競技会を終えた。

レースの総合成績は、全22レースを戦い、3つのカットレースを計算して、何とセール No. 45地濱選手とセール No. 59平尾選手が同点となった。結局、上位レース数の差で順位を決めるというルールでセール No. 59平尾選手の優勝と決まった。そうしてみると、上位3艇が首位争いを演じた最終レースで優勝が決まったということになった。

IOM NCA JPN 第5回競技会結果

- 1位セール No.59 平尾選手
- 2位セール No.45 地濱選手
- 3位セール No.64 池松選手

セール No.32岡田選手は2日目の追い上げで3位とは小差の4位に入った。

レース結果の集計と並行して、マーク回収から片付けを行った。

レース委員長をお願いした、中島さんから入賞者にカップが授与された。中島競技委員長の講評では、トラブルが多かったとの指摘があった。やはり模型だからという甘さがあるのか、強風とはいえ、接触での救済、ジブステー切れ、メインシート噛みこみ、メインシート切れ、セールサーボトラブル、ラダーサーボトラブル、ラダー損傷等があり、実艇から見たら、トラブルは漂流を意味するのでこのようにトラブルが多いことは問題だと思われるのではないか。また、風に合ったセールの選択をするようにという指摘があった。

遠方からの参加者を無事の帰宅を祈って見送り、閉幕となった。